【実践報告①】

新学習指導要領を踏まえた学習評価の在り方に関する研究

あま市立美和小学校

１　はじめに

本校は、名古屋市の西に位置するあま市の学校である。緑豊かな地域で、親子三代にわたり美和小学校出身という家庭も多く、地域の方々に見守られながら本年度（令和５年度）150周年を迎えた。本校では、水曜日から金曜日はノーチャイムデーとしている。休み時間に運動場で遊んでいても時計を見て引き潮のように教室へ戻っていく。教員だけでなく児童にとっても学校自慢の一つである。令和５年度は、各学年２学級、特別支援学級５学級の17学級で、全校児童は323名である。

２　研究の内容

(1) 研究の概要

ア　１年次（令和３年度）の取組

１年次は、第３学年理科の単元「音を出して調べよう」で、教材・ワークシート・授業マネジメントシート（別紙１）づくりに取り組んだ。授業の流れはとてもよく考えられていたが、資料１に示すように、作成に当たった学年にかかる負担が大きかった。また、全教員で、研究授業参観や経過報告などを共有したが、自分事として捉えられず、授業マネジメントシートの作成が授業改善や、より確かな評価へつながるところまでは浸透していかなかった。

【資料１　１年次の取組について】

	取組の重点目標	取組学年	教務主任の立場での反省や成果
1年目	・「主体的に学習に取り組む態度」の評価を見取る ・児童の振り返りを引き出すワークシートづくり ・授業マネジメントシートを作成	3年生 理科	・取り組んだ学年への負担大 ・来年度は、全教員が負担感なく取り組めるような工夫をする

イ　２年次（令和４年度）の取組

２年次は、前年度の反省を生かし、全教員で取り組む方法を考えた。文章を入力する手間を省くために、現職教育でMicrosoft Publisherというアプリを使用し、単元計画や評価の場面などをテンプレート化して配置するという授業マネジメントシート（別紙２）づくりを提案した。学年で担任同士がコミュニケーションをとりながらの作成だったので、同一歩調で取り組むことができ、評価を行う場面や授業でのつまずきを共有することができたという声が聞かれた。しかし、資料２に示すように、授業マネジメントシートを作成することが目的になってしまい、児童の様子を見取り、目の前の児童に合わせた授業改善を行うまでには至らず、主体的に学習に向かう態度を見取る手だてとしても十分に活用されたとは言えなかった。

【資料２　２年次の取組について】

	取組の重点目標	取組学年	教務主任の立場での反省や成果
2年目	・全教員で取り組む ・学年で授業マネジメントシートをパブリシャーで作成・共有	全学年 算数	・負担感の少ない授業マネジメントシートの作成に集中しすぎて、「指導と評価の一体化」を先生方に実感してもらう現職教育ができなかった

ウ　３年次（令和５年度）の取組

３年次は、資料３のように、全教員で取り組むことは変えず、目の前の児童の様子を見取りながら授業改善を行うことを重点目標とした。しかし、単元計画を

【資料３　３年次の取組について】

	取組の重点目標	取組学年	教務主任の立場での反省や成果
3年目	・全教員で取り組む ・学年で授業マネジメントシートを作成・共有 ・単元の流れを把握し「児童の様子を見取りながら授業改善をする」ことを意識して教師自身が振り返りを行い、次時の授業に生かす	全学年 算数 個人的に 国語 社会	・授業マネジメントシートの型を決めず、「児童の様子を見取りながら授業改善をする」ことを提案し、それぞれの先生方の使いやすい形式で取り組んだ結果、たくさんの先生方が手応えを感じたようだ

一から入力していくことへの負担感があった。グッドノートを使用してはどうかと考え現職教育で講習会をしてみたが、なかなか使いこなすことができなかった。そこで、算数の研究発表の担当教諭が必要最低限の枠を提供し、それぞれの教員が最も負担感のない方法で取り組むことになった。指導書の計画案を自分なりにまとめながら作成したり、板書計画を取り入れながら手書きしたりと、さまざまなパターンの授業マネジメントシートが誕生した。授業マネジメントシートの型にこだわるのではなく、児童の変容が見たい、児童からの疑問やつまずきを授業に生かしたいという思いが徐々に共通理解されていった。

(2) 実践内容

ア　研究推進のための組織づくり

本校の研究推進の原動力はＰＤ会という若手教員で構成されている組織である（**資料４**）。結成２年目だが、学校を自分たちが動かしていくという気概をもって自由に意見交換をし、新しいアイデアを生み出しながら学校運営に大きく関わっている。センター発表会の内容についても、ＰＤ会での意見を吸い上げて完成させていくことが多かった。

【資料４　ＰＤ会とＣＡ会】

ＰＤ会･･･若手教員で構成 （発案チーム） ＣＡ会･･･ベテラン教員で構成 （ブラッシュアップチーム）

ＣＡ会は、ベテランの教員で構成されており、ＰＤ会で話し合われた案を否定するのではなく、ブラッシュアップさせていく役目を担っている。各学年で作成している授業マネンジメントシートについても取組の主体は若手教員であるが、ベテランの教員と一緒につくり上げることで、その豊かな経験に触れることができ、安心して授業に取り組むことができている。

イ　実践例の紹介

(ｱ) 第５学年算数科「小数のわり算」（**別紙３**）

第１時を終えた授業者は、わり算を用いることは多くの児童が理解できたが、「わり算の性質（被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらないこと）を理解している児童が少なかった」とし、次時に「除数を整数にするために被除数にも同じ数をかけて、わり算することをおさえたい」と授業マネジメントシートに記入した（**資料５**の下線部）。同じ数をかけることに関して「10倍、100倍することをしっかりおさえる」（**資料５**の枠線部）と、手書きのメモで授業改善の具体的な内容を確認することができた。

【資料５　算数科　授業マネジメントシート（抜粋）】

【思考・判断・表現】 ・　図を用いるなどして数量の関係に着目し、小数でわる式の意味を考えたり説明したりしている。	発言 ノート	１メートルあたりの量を求める場合、わり算を用いることは大半理解できていた。しかし、計算をする時にわり算の性質（被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらないこと）は理解できている児童が少なかった。次時では、除数を整数にするために被除数にも同じ数をかけて、わり算することをおさえたい。
【知識・技能】 ・　わり算の性質を使って、整数÷小数の計算をすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・　除数に着目し、被除数と商の大小関係について、進んで考えたり、説明しようとしたりしている。	発言 ノート 観察	除数が大きくなればなるほど、商が小さくなることの理解に苦しむ児童が多かった。多くの人数で分ける方が１人あたりの量が少なくなるという具体例をあげるとイメージできる児童が増えた。次時では商の小さい順に並べるといった復習から始めたい。 同じ数(10倍,100倍)することをしっかりおさえる 小数でも整数と同じ考え方をさせる

(ｲ) 第５学年社会科「米作りのさかんな地域」

毎時間、児童からの疑問点や見取りを授業に生かせるような授業改善をしながら授業を進めてきた。例えば第５時では、５月に自分たちで田植えをした田で稲刈りをすることと合わせながら、現在の日本の米作りの抱える問題について考えさせたところ、児童の話し合いは、機械化することのメリ

ットとデメリット、農業機械の値段などが話題の中心となり、ほ場整備をするという視点は出てこなかった。

そこで、授業者は、さまざまな地域の田を紹介するよう授業改善を図った（**資料６**）。棚田等の写真を紹介することで、機械化することだけでなく、地形やほ場整備の大切さにも気付かせることができた。

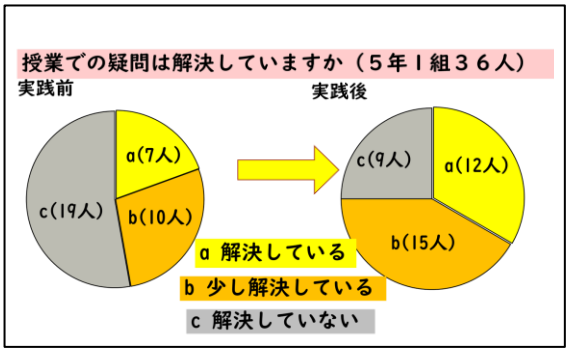
このようにして、授業マネジメントシートを活用し授業改善しながら実践を進めてきた結果、児童から「地形や水の深さ、気温によって稲の生長が変わり、管理はとても大変」「管理を丁寧にしていても、稲を虫に食べられたり、雑草が生えたりして苦労されている」「稲刈りを機械でやると、人の手でやるよりも何倍も速くできることを実際に見て、とてもよく分かった」といった振り返りがあった。

授業者が授業改善しながら問いかけてきたことが児童の中でしっかり経験と結び付き、新たな視点となって豊かな学びにつながった。そして、授業者が授業マネジメントシートを作成して取り組んだ単元と、そうでない単元との疑問解決という視点で比較したアンケートでは、児童の意識が大きく変化していた（**資料７**）。教師が変われば、児童も変わるということを強く実感した（**別紙４**）。

【資料６　社会科　授業改善（抜粋）】

第５時	機械化をすることでうまれる課題について児童が話し合い、金銭面の課題が多く出された。だが、教室から見える身近にある田がどれも四角形であるため、ほ場整備という視点はうまれなかった。
	教科書に載っている庄内平野の昔の田の様子だけでなく、さまざまな土地の田を紹介し、身近な田との違いに着目させ、機械を用いるのに適している田の大きさも考えさせた。自分たちが田植えをし、稲刈りをする田も話題にした。

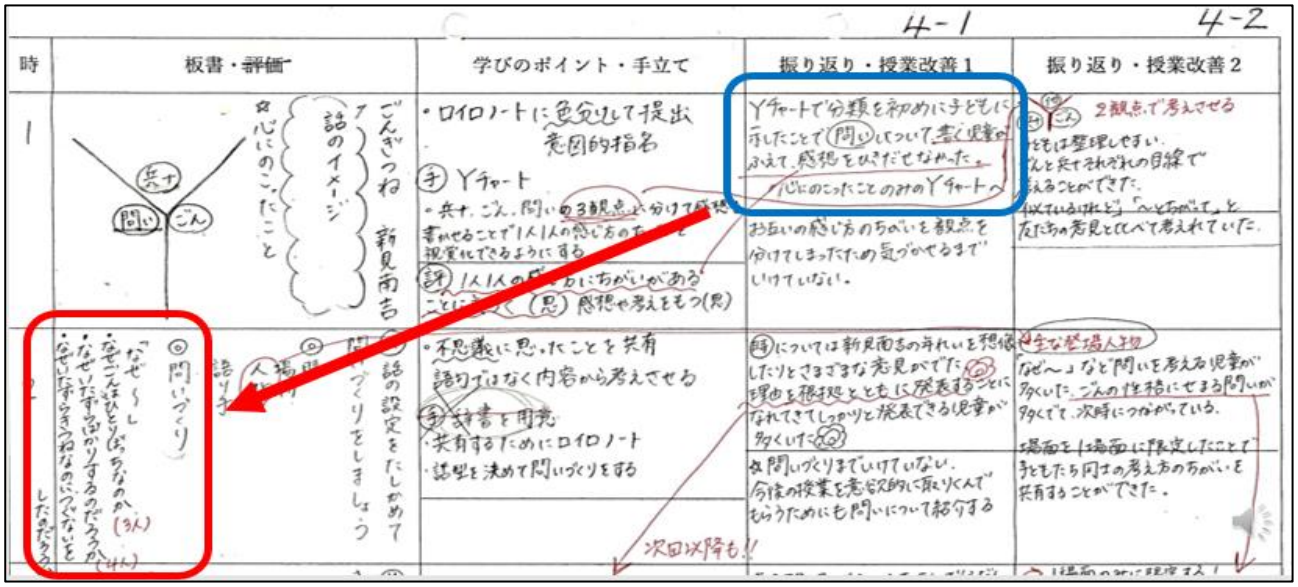
【資料７　社会科での児童アンケート】



(ｳ) 第４学年国語科「ごんぎつね」

第４学年では、資料８のように、１組と２組で振り返り・授業改善の欄を設け、１組の振り返りを基に学年で話し合いながら授業改善を行い２組で実践した。

【資料８　国語科　授業マネジメントシート（抜粋）】



第１時では、初発ということや、ごんぎつねの物語の舞台が、児童にとっては想像しにくい時代であることもあり「問い＝疑問」が多く出された（**資料８**の四角で囲った部分）。授業者としては、

「感想＝心に残ったこと」を中心にして授業を進める予定にしていたが、児童からの素直な疑問を「問い」として終末まで扱い、読みが深まるにつれて児童自身で解決していく授業へ変更するという授業改善が行われた。児童は、教材文から疑問解決の根拠となる表現を見つけ出し、みんなに分かりやすく発表することができた。

第３時以降も、問題解決しながら読みを深めていくことを定型化することで、児童にとっては学習内容が明確となり授業者の指示も最小限で済むため、話し合いの時間の確保につながった（**別紙５**）。

ウ　授業マネジメントシートを持続可能な取組にしていくために

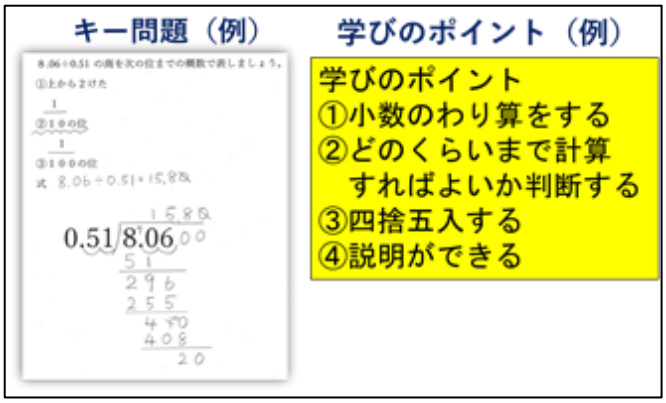
現職教育を進める立場として、授業マネジメントシートを作成することのよさを、どのように先生方に伝え、取り組んでもらうか悩んできた。実践例で紹介した学年の先生方は、「自分に余裕をもって授業ができ、児童の見取りがよくできる」「学年で授業改善しながら同一歩調で授業に臨めるので、学年全体の学力向上につながっている」など、その効果を絶賛している。しかし、どんなによいことは分かっていても完成版を見せられ、「このように作ってください」となると、負担感を感じてしまうのが現状である。ＰＤ会に参加して、そんな話をしていると、ＰＤ会のメンバーからとても分かりやすい説明があったので紹介する。

【資料９　授業マネジメントシートの考え方】

山登り	授業マネジメントシート
スタートから頂上への直線コース	単元の流れ
景色のいい場所・見たい景色	評価を見取る場所
さまざまなルート	全ての児童が理解しながら学習を進める道筋
道に迷う・予想外のハプニング	児童の疑問・つまずき
ルート変更	児童の様子を見ながら授業改善
ルート上の道案内	児童への適切な支援
登山中の心に残る出来事	児童の主体的な態度を見取る
ちょうど半分ぐらいでの休憩	児童自身の学びの見返し（復習）と単元のまとめ（キー問題）への見通し
ゴール	キー問題（課題）をクリア

それは、授業マネジメントシートを山登りに例えるというものである（**資料９**）。頂上へ真っすぐ伸びた矢印が、指導書に載っているような単元計画で、たどり着きたいゴールは決まっているが、授業者も含めて児童全員が過酷なルートでは山頂にはたどり着けない。そこで、「見たい景色＝評価を見取る場所」を巡りながら、確実に全員が山頂にたどり着くルートを考えるのが授業マネジメントシートとなる。しかし、計画したルートでさえも、「道に迷うなど予想外のハプニング＝児童のつまずきや疑問」は起こる。こういったケースではルート変更が必要となり、それが児童の様子を見取り授業改善を行うことになる。そして「ルート上に設置されている道案内＝児童への適切な支援」と例えられる。もし、児童の疑問やつまずきを解決するような授業改善を次時に行ったとすると、授業者は児童が自分たちで疑問を解決していくような活動を意図的に計画し、支援することができる。その活動での児童の姿は、山登りでは心に残る出来事となり、実際の授業では「主体的に学習に取り組む態度」の見取りポイントにすることができる。いよいよ頂上が見えてきた。疲れもたまってきているので、山登りの終盤で休憩をとることにする。これは、自分の学びの見返しと単元のまとめへの見通しをするポイントになる。

【資料10　キー問題・学びのポイントの例】



今年度の算数の研究では、単元のまとめの場面で既習事項をフル活用する「キー問題」に取り組む時間を設定した。学びのポイントを箇条書きで提示することで、教師が児童の評価を見取るだけでなく、児童自身で自分がどこまで理解しているかを見取ることもできる（**資料10**）。また、児童同士の学び合いの場面では、「主体的に学習に取り組む態度」も見取ることができる。

３　研究の成果と課題

この研究での成果は、まず、若手の育成につながったことである。口頭であれこれ教えるのではなく、教員にとって最も大切な力「授業力」を、目に見える授業マネジメントシートを用いながら、一緒に授業改善していくことで、若手の育成ができたことは、大きな成果である。

また、職員同士が今まで以上にコミュニケーションをとるようになり、学年を超えて授業改善について話すようになった。その意識の変化は児童にも波及しているように感じられる。話し合いや学び合い活動で、自分の思いを発信する機会が多くなり、振り返りを見ても「分かる・分からない」で終わるのではなく、みんなで「分かるようになろう」という気持ちが感じられる。そんな児童の様子を見ていると、教師自身も授業が楽しくなり、もっと工夫してみようと思うようになる。

そして、「主体的に学習に取り組む態度」は、授業者自身が意識して見取りをしていかないと見ることができないもので、授業者の評価でもあるということを意識し始めているのではないかと感じる。これは、まだ芽が出たぐらいの小さな成果であり、これから全教員にとって共通の課題となることでもある。

今後はＰＤ会で、「主体的に学習に取り組む態度」を見取るための手だてや、それぞれの教員の工夫などを話し合い、積極的に発信していくことで共有化していきたい。また、授業マネジメントシートを持続可能な取組として定着させていくためにも蓄積し活用しながら改善を重ね、本校の財産としていきたい。

あま市立美和小学校

授業マネジメントシート

小学校第３学年　　理科

〇学校目標（目指す人間像）：力いっぱい考える子　笑顔いっぱい思いやりのある子　元気いっぱいがんばる子
〇単元名　音を出して調べよう
〇単元の目標
・物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること、また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わることを理解できる。（知・技 A(3)ア(ウ)）
・音を出したときの震え方の様子について追及する中で、差異点や共通点を基に、音の性質についての問題を見いだし、表現することができる。（思・判・表 A(3)イ）
・音を出したときの震え方の様子について追及する中で、主体的に問題解決しようとすることができる。（態）
〇単元の評価規準
【知・技】
・物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること、また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わることを理解している。
・音の性質について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。
【思・判・表】
・音の性質について、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現するなどして問題解決している。
・音の性質について、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。
【態】
・音の性質についての事物・現象に進んで関り、他者と関わりながら、「問題を見いだす」「予想を立て、実験する」「問題解決する」「新たな問題を見いだす」という問題解決を行おうとしている。
・音の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

時	◆目標　〇活動	評価の視点	*◆評価方法* *※態度の記録に残す評価は網掛け部分のみ*			*評価・授業改善等*
			知技	思判表	態度	
1	◆音のひみつをとき明かそう。					
	〇教師の自作楽器の演奏を聞く。 〇自作の楽器を演奏し、音が出ているときの様子を観察する。 〇発見した不思議を発表し合い、音が出たり伝わったりしているときの様子について調べる課題を見いだす。 〇音のひみつ発見ノートに、振り返りを書く。	・学習課題をつかめたか。 ①共通点や差異点の比較を基に、音について調べたいことを話し合うことができたか。 ②学習前の問いや本時の話し合いから、なりたい自分の姿や調べたい問題について考えることができたか。		① 行動観察 音のひみつ発見ノート	② 行動観察 音のひみつ発見ノート （なりたい自分） （学習前）	夏休みの課題で作った自作楽器を使用したが、楽器のふるえを児童に気付かせるためには、弦楽器や打楽器などを採用した方がよかった。 ねらいをつかめた児童が少ないように感じた。話し合いの活動では、教師と児童の対話を他の児童へつなげていくべきであった。 発表時の楽器の紹介では、ICT を活用して大型テレビに映すなどして、理解を深めるとよかった。
2	◆音と震えの関係を確かめよう。					
	〇楽器で音を出して、楽器が震えているか調べる。 〇音が出るときの物の様子についてまとめる。 〇音のひみつ発見ノートに、振り返りを書く。	③音が出るときの様子を調べて分かった音と震えの関係を記録できたか。 ④めあてを意識して取り組むことができたか。	③ 行動観察 音のひみつ発見ノート		④ 行動観察 発言 音のひみつ発見ノート	ふるえを調べるときに、実際の楽器を使うことは児童から意見が出たが、ふるえを見やすくするために付箋を使うことは、教師側から提示してしまった。いくつか道具を用意して、選ばせるなどをすればよかったと思う。 時間が足りず、振り返りが次の時間に回ってしまった。道具を渡す順序を工夫して時間短縮を図るべきだった。

3	◆音の大小と震え方の関係を調べよう。					
	○音が大きいときと小さいときの楽器の震え方を調べる。 ○音の大きさと震え方についてまとめる。 ○音のひみつ発見ノートに、振り返りを書く。	⑤実験の結果から音の大きさと震え方の関係を表現できたか。 ⑥めあてを意識して取り組むことができたか。		⑤ 音のひみつ発見ノート 発言	⑥ 音のひみつ発見ノート	児童がやりたいと言っていたトライアングルとタンバリンで実験・観察を行ったが、タンバリンでは大小の違いが分かりにくかった。 前時と同様に付箋を渡したら、大小の違いを見分けるのにかなりわかりやすい貼り方を児童が発見して、納得感のある観察ができた。
4・5	◆学習したことを生かし、音を伝えよう。					
	○音が伝わるとき、音を伝える物が震えているか調べる。 ○音が伝わるとき、音を伝える物が震えていることをまとめる。 ○糸電話で音を伝える方法を考える。 ○音のひみつ発見ノートに、振り返りを書く。 ○学習したことを生かして糸電話を作る。 ○糸電話で声を伝え合う。 ○音が出るときの物の様子について、学んだことをまとめる。 ○音のひみつ発見ノートに、振り返りを書く。	⑦実験の結果から音が伝わるとき、音を伝える物が震えていることを捉えることができたか。 ⑧学習したことを生かし、糸電話で音を伝える方法を考えることができたか。 ⑨学習したことを生かし、糸電話作りに取り組むことができたか。	⑦ 音のひみつ発見ノート 発言	⑧ 音のひみつ発見ノート （計画書）	⑨ 行動観察 音のひみつ発見ノート	前時のときに、ふるえがトライアングルを持っている手にも伝わってきたという児童の意見が出ていたので、そこから本時にスムーズに入ることができた。 今までの学習を生かして何をしたいかを考えさせ、聞こえやすい糸電話を作ることをクラスのめあてとして立てることができた。しかし、聞こえやすくするための工夫の理由として、今までの学習内容を挙げる児童が少なかった。これまでの振り返りを行った板書を使って、これらを理由にするんだということを強調すればよかったと思う。 聞き比べをした後では、糸が長いほど聞こえやすいという意見の理由として、ふるえの大小の観察をしたときに、ふるえが大きいほど音が大きくなるから、糸が長いほど聞こえやすいのは正しいと思うという意見などが出て、話し合いが活発で有効性が高かったと思う。
6	◆学習を振り返る。					
	○ペーパーテスト	⑩単元を通して、どんな力が身に付いたか。	ペーパーテスト 【知識・技能】 【思考・判断・表現】		⑩ 音のひみつ発見ノート （学習後） （自己評価）	テストでは、普段高得点を取れていない児童も「ふるえ」というキーワードを使って、糸電話の糸をつまむと音が聞こえなくなる仕組みを説明することができていた。しかし、「紙コップから音が出ているときに糸はどうなっているか」という問題で、「ぴんとはっている」というように、観察時の自分の発見に引っ張られて、誤答してしまう児童もいた。 音のひみつ発見ノートに、学習した内容のまとめを教科書に沿った内容で書く欄を設けると良かったと思う。
後日	○日常生活の中で音を使ったものがどのように活用されているか調べる。					

☆単元を終えて

全体を通して、主体的に学びに向かう態度を育む授業を準備するのは、かなり大変だったように感じた。特に、子どもたちのやりたいことや調べたいことに合わせて教材を用意すること、必要な学習内容を子どもたちの発見や気付きから引き出せるように導くことが難しかった。しかし、その準備が綿密であるほど、子どもたちの食いつきや納得感が強く、普段集中が苦手な児童も積極的に実験・観察に取り組む姿が見られた。さらに、テストの記述で理由を答える問題では、普段は空欄で出してしまうことが多い児童も正答を書くことができていたので、主体的に学びに向かう態度を育む授業を積極的に行っていけば、子どもたちの学習意欲と理解度を向上させることに繋がっていくと感じた。

今回の振り返りシートである「音のひみつ発見ノート」では、児童が記入する欄が多く、授業時間内に振り返りが終わらないことが多々あった。また、予想やまとめを書く欄を用意した方が、児童自身が自分の学びを振り返った際により効果的だと思った。以上のことのように、振り返りシートの記述欄の精選が一番の課題だと感じた。

様々な多角形の面積を工夫して求められるようになっていてほしいですか。

平行四辺形の面積の求め方について、友達と話し合い、どんなことがわかりましたか。

多角形の面積をどのように求めることができましたか？

＊	復　習		①・既習事項の確認と持続
9	目標	○　三角形や四角形などの面積の求め方を理解し，その公式を使って面積を求めることができる。 ○　三角形に分割していろいろな多角形の面積を求めることができる。	
面積（14）	評価規準	知識・技能	◇　底辺と高さの意味を理解し，公式を用いるなどして三角形や四角形の面積を求めることができる。　②⑩⑫⑬⑭
		思考力・判断力・表現力	◇　既習の面積公式をもとに，三角形や平行四辺形などの面積を工夫して求めたり，公式をつくったりすることができる。　③⑤⑦⑧⑨⑪
		主体的に学習に取り組む態度	◇　既習の面積公式をもとに，三角形や平行四辺形などの面積の求め方や公式を進んで見いだそうとする。　①④⑥
	じゅんび		①　・既習事項の理解を確かめる。
①三角形の面積（3）	直角三角形の面積の求め方を考える ・長方形の半分と考えると求められるね ・少し変形させると長方形になるよ		②　・既習の長方形の求積の方法を想起させ直角三角形の面積を求める手がかりにさせる。 ・三角形などの面積について考えていくという単元の課題をつかませる。
	三角形や四角形の面積の求め方を考えていこう		
	鋭角三角形の面積の求め方を考える ・２つの直角三角形に分けてみよう ・大きな長方形を考えてみよう ・少し変形させて長方形にしてみよう		③　いろいろな考え方をさせる。 ・図を使って説明させる。 ・どの考え方も，長方形の面積の半分になっていることを確認する。
	三角形の面積を求める公式を考える ・いつも長方形の半分だったから，長方形のたてと横の長さが分かればできるね ・長方形のたてと横は，三角形のどこになるのかな		④　用語「底辺」「高さ」を知らせ，三角形の面積の公式をまとめさせる。 三角形の向きを変えて見させたり，かかせたりして，底辺・高さの理解を深めさせる。
②平行四辺形の面積（3）	平行四辺形の面積の求め方を考える ・対角線で２つの三角形に分けて考える ・中央の長方形と両端の２つ三角形に分けて考える ・片方のはみ出した三角形を反対側にずらして長方形に変形させて考える ・ちょうど真ん中で切り，ずらして長方形に変形させて考える		⑤　・４人の考えをもとに，言葉，数，式，図等を使って説明させる。 ・グループや全体で話し合わせ，考えを広げさせる。 ・いろいろな考え方の中から，より簡単な方法を考えさせる。 ・対角線で２つの三角形に分けられることや，対角線を底辺と考えれば測るところが少なくてすむことに気付かせる。
	平行四辺形の面積を求める公式を考える ・たてと横かな ・ななめではいけないので，直角になるように測るんだよ		⑥　・三角形や長方形をもとにして面積を求めるには，どこの長さを測ったらよいか考えさせる。 用語「底辺」「高さ」を知らせ，公式をまとめさせる。
	高さが外にあるときの面積の求め方を考える ・三角形の面積は，平行四辺形の面積の半分と考えると… ・平行四辺形を対角線で２つの三角形に分けて動かしてみよう		⑦　・鋭角三角形になることに気付かせる。 三角形や平行四辺形の一部を動かしても面積が変わらないことから，求積公式が使えることに気付かせる。 高さが外にある場合の三角形や平行四辺形の面積の求め方を考え，求積公式が適用できることを理解させる。
③台形・ひし形の面積（2）	台形の面積の求め方を考える ・対角線で２つの三角形に分けて考えよう ・２つを逆さまにして合わせると平行四辺形になるよ		⑧　既習の三角形や平行四辺形の求積公式を使って考えさせる。 用語「上底」「下底」を知らせ，公式をまとめさせる。
	ひし形の面積の求め方を考える ・対角線で２つの三角形に分けて考えよう ・大きな長方形にして考えよう		⑨　既習の三角形や長方形の求積公式を使って考えさせる。 公式をまとめさせる。
	練　習		⑩　・学習内容を確実に身に付けさせる。
④面積の求め方のくふう（2）	三角形の面積の公式を使って，多角形の面積の求め方を考える		⑪　・四角形を三角形に分割すればその面積が求められることに気付かせる。
	平行な２本の直線にはさまれている平行四辺形の面積を求めよう		⑫　・底辺の長さが等しく，高さも等しい三角形や平行四辺形は，面積も等しくなることを理解させる。
⑤面積と比例（1）	三角形の高さと面積の関係を調べる ・高さが１cmずつ増えると，面積は３㎠ずつ増える ・高さが２倍，３倍，……になると，面積も２倍，３倍，……になる		⑬　・点の位置を変えることで変化する三角形の面積を調べさせる。 ・変化の様子を表にまとめさせ，規則性に気付かせる。 ・面積は高さに比例していることをおさえる。
11	学びのまとめ，学習の感想		⑭　・学習内容の理解を確認する。

思・判・表　主体的　思・判・表　主体的　思・判・表　思・判・表　思・判・表　知・技　思・判・表　知・技

＊	復　習	①・既習事項の確認と持続	
9 面積（14）	目標	○　三角形や四角形などの面積の求め方を理解し，その公式を使って面積を求めることができる。 ○　三角形に分割していろいろな多角形の面積を求めることができる。	
	評価規準	知識・技能	◇　底辺と高さの意味を理解し，公式を用いるなどして三角形や四角形の面積を求めることができる。②⑩⑫⑬⑭
		思考力・判断力・表現力	◇　既習の面積公式をもとに，三角形や平行四辺形などの面積を工夫して求めたり，公式をつくったりすることができる。③⑤⑦⑧⑨⑪
		主体的に学習に取り組む態度	◇　既習の面積公式をもとに，三角形や平行四辺形などの面積の求め方や公式を進んで見いだそうとする。①④⑥
	じゅんび ①		・　既習事項の理解を確かめる。
①三角形の面積（3）	直角三角形の面積の求め方を考える ②		・　既習の長方形の求積の方法を想起させ直角三角形の面積を求める手がかりにさせる。 ・　三角形などの面積について考えていくという単元の課題をつかませる。
	・長方形の半分と考えると求められるね ・少し変形させると長方形になるよ		
	三角形や四角形の面積の求め方を考えていこう		
	鋭角三角形の面積の求め方を考える ③		・　いろいろな考え方をさせる。 ・　図を使って説明させる。 ・　どの考え方も，長方形の面積の半分になっていることを確認する。
	・２つの直角三角形に分けてみよう ・大きな長方形を考えてみよう ・少し変形させて長方形にしてみよう		
	三角形の面積を求める公式を考える ④		・　用語「底辺」「高さ」を知らせ，三角形の面積の公式をまとめさせる。 ・　三角形の向きを変えて見させたり，かかせたりして，底辺・高さの理解を深めさせる。
	・いつも長方形の半分だったから，長方形のたてと横の長さが分かればできるね ・長方形のたてと横は，三角形のどこになるのかな		
②平行四辺形の面積（3）	平行四辺形の面積の求め方を考える ⑤		・　４人の考えをもとに，言葉，数,式,図等を使って説明させる。 ・　グループや全体で話し合わせ，考えを広げさせる。 ・　いろいろな考え方の中から，より簡単な方法を考えさせる。 ・　対角線で２つの三角形に分けられることや，対角線を底辺と考えれば測るところが少なくてすむことに気付かせる。
	・対角線で２つの三角形に分けて考える ・中央の長方形と両端の２つ三角形に分けて考える ・片方のはみ出した三角形を反対側にずらして長方形に変形させて考える ・ちょうど真ん中で切り，ずらして長方形に変形させて考える		
	平行四辺形の面積を求める公式を考える ⑥		・　三角形や長方形をもとにして面積を求めるには，どこの長さを測ったらよいか考えさせる。 ・　用語「底辺」「高さ」を知らせ，公式をまとめさせる。
	・たてと横かな ・ななめではいけないので，直角になるように測るんだよ		
	高さが外にあるときの面積の求め方を考える ⑦		・　鋭角三角形になることに気付かせる。 ・　三角形や平行四辺形の一部を動かしても面積が変わらないことから，求積公式が使えることに気付かせる。 ・　高さが外にある場合の三角形や平行四辺形の面積の求め方を考え，求積公式が適用できることを理解させる。
	・三角形の面積は，平行四辺形の面積の半分と考えると… ・平行四辺形を対角線で２つの三角形に分けて動かしてみよう		
③台形・ひし形の面積（2）	台形の面積の求め方を考える ⑧		・　既習の三角形や平行四辺形の求積公式を使って考えさせる。 ・　用語「上底」「下底」を知らせ，公式をまとめさせる。
	・対角線で２つの三角形に分けて考えよう ・２つを逆さまにして合わせると平行四辺形になるよ		
	ひし形の面積の求め方を考える ⑨		・　既習の三角形や長方形の求積公式を使って考えさせる。 ・　公式をまとめさせる。
	・対角線で２つの三角形に分けて考えよう ・大きな長方形にして考えよう		
	練　習 ⑩		・　学習内容を確実に身に付けさせる。
④面積の求め方のくふう（2）	三角形の面積の公式を使って，多角形の面積の求め方を考える ⑪		・　四角形を三角形に分割すればその面積が求められることに気付かせる。
	平行な２本の直線にはさまれている平行四辺形の面積を求めよう ⑫		・　底辺の長さが等しく，高さも等しい三角形や平行四辺形は，面積も等しくなることを理解させる。
⑤面積と比例（1）	三角形の高さと面積の関係を調べる ⑬		・　点の位置を変えることで変化する三角形の面積を調べさせる。 ・　変化の様子を表にまとめさせ，規則性に気付かせる。 ・　面積は高さに比例していることをおさえる。
	・高さが１㎝ずつ増えると，面積は３㎠ずつ増える ・高さが２倍，３倍，……になると，面積も２倍，３倍，……になる		
	学びのまとめ，学習の感想 ⑭		・　学習内容の理解を確認する。

授業マネジメントシート（１３時間完了）

時	学習活動	知・技	思・判・表	主体的	評価規準	評価方法	形成的評価による授業改善
1	１mのひものねだんを求める		○		【思考・判断・表現】 ・　図を用いるなどして数量の関係に着目し、小数でわる式の意味を考えたり説明したりしている。	発言 ノート	１メートルあたりの量を求める場合、わり算を用いることは大半理解できていた。しかし、計算をする時にわり算の性質（被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらないこと）は理解できている児童が少なかった。次時では、除数を整数にするために被除数にも同じ数をかけて、わり算することをおさえたい。
2	わり算の商の大きさについて調べる	○		○	【知識・技能】 ・　わり算の性質を使って、整数÷小数の計算をすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・　除数に着目し、被除数と商の大小関係について、進んで考えたり、説明しようとしたりしている。	発言 ノート 観察	除数が大きくなればなるほど、商が小さくなることの理解に苦しむ児童が多かった。多くの人数で分ける方が１人あたりの量が少なくなるという具体例をあげるとイメージできる児童が増えた。次時では商の小さい順に並べるといった復習から始めたい。
3	小数÷小数の計算の仕方を考える		○		【思考・判断・表現】 ・　これまでの計算をもとにして、小数÷小数の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。	発言 ノート 観察	除数を整数にし、計算することはおさえられている。しかし、被除数も整数にしなければならないと理解している児童が多い。次時からは筆算に入るので、除数を整数にすることをおさえたい。
4	小数÷小数の筆算の仕方を考える	○			【知識・技能】 ・　小数÷小数の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。	発言 ノート	手順をノートにまとめさせ、除数を整数にすること、商の小数点の位置をおさえることができた。商に小数点を付け忘れる児童が多いため、次時では、被除数の小数点を動かした際に、商に小数点をうつことで忘れにくいことを伝える。
5	わり切れるまで計算する	○			【知識・技能】 ・　小数のわり算の計算について深く理解し、筆算で正しく計算することができる。	発言 ノート	被除数の空位の０をつけたして割り進めることができた。 また、被除数の小数点を動かした際に、商に小数点をうつことを伝えたことによって、商の小数点のうち忘れが減った。
6	商を適当な位までの概数で表す		○	○	【思考・判断・表現】 ・　四捨五入をする位を判断し、商を概数で表すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・　四捨五入をする位を話し合い活動を通して、理解を深めようとしている。	発言 ワークシート ロイロノート	概数で表す位より一つ小さい位を四捨五入することをおさえることができなかったため、商を求めることができても、概数で表すことができる児童が少なかった。また、話し合う内容を焦点化する必要がある。商を確認した上で、四捨五入する位を話し合うポイントとすべきだった。次時の前時を振り返る場面で、表す概数の一つ小さい位を四捨五入することをおさえる。

7	商を１の位まで求め、余りを求める		○		【思考・判断・表現】 ・　除数と余りの関係をもとに、余りの大きさを考えたり説明したりしている。	発言 観察	自力解決の場面では、被除数の小数点を動かした場所のまま、余りに小数点を下す児童が多かった。話し合い活動で余りが除数よりも大きくなることはないと気付き、被除数のもとの小数点の位置で小数点を下すことを確認できた。また、わり算の答えを確かめる式を思い出し、当てはめて余りと商を確認することができた。
8	ある量を１としたときの、大きさの表し方について考える	○	○		【知識・技能】 ・　割合や数量が小数で表された場合の割合や比較量を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・　図や式を使って、２つの数量の割合を考えたり説明したりしている。	発言 ノート	割合が小数で表される場面でも、整数と同じ考えでよいことを理解することが難しい児童が多かった。１より小さい小数倍の場合、答えが小さくなるイメージはもっているものの、掛け算は積が大きくなるイメージをもっている。もう一度、積と乗数の大小関係、商と除数の大小関係をおさえる。
9	何倍かにあたる大きさから、１にあたる大きさをもとめる	○	○		【知識・技能】 ・　割合や数量が小数で表された場合の基準量を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・　図や式を使って、２つの数量の割合を考えたり説明したりしている・	発言 ノート	基準量を求めるときに、比較量を小数倍し、求める児童が多かった。関係図を書かせることで、１にあたる大きさの小数倍であることをおさえた。基準量と比較量を文章から読み取る練習が必要だ。次時の前時の復習で基準量と比較量の読みとりをおさえる。
10	全体の何倍になっているかを考える		○	○	【思考・判断・表現】 ・　「ａのｂ倍のｃ倍」を「ａの（ｂ×ｃ）倍」として考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・　ａ×（ｂ×ｃ）倍を図に書いて、比較量や基準量を考えようとしている。	発言 ノート 観察	ａの（ｂ×ｃ）倍として考えることは容易だったが、ａが分からない場合にわり算をしてａを求めることが難しい児童が多かった。かけ算の反対はわり算だということや、分からない数を□に置きかえて計算することを説明したことで、自分の理解しやすい方法で計算することができた。
11	□を使った式で表し、□を求める計算について考える	○		○	【知識・技能】 ・　小数の加法と減法、乗法と除法の関係を理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・　演算の関係に着目し、□を使った式の□を求める計算の仕方を考えようとしている。	ノート 発言 観察	前時に□を使った式を取り入れて説明したため、理解できる児童が多く感じた。分かっていることをメモしたり、関係を図で表したりして、求める数を□とおく手順で立式できた。小数の加減や乗除についても、整数と同じ計算の間の関係が成り立つことを理解できた。
12	学びのまとめ、学習の感想	○			【知識・技能】 ・　学習内容を理解している。	ノート 観察	１あたり量を求めるときは、除法を使うことがおさえられていない児童が多かった。また、除法を使うことは分かっても被除数や除数が逆になっている児童が多かった。練習問題にのっている数直線だとどのような問題文になるのかを考えさせ、理解を促した。

4　授業マネジメントシート（８時間完了）

時	学習活動	知・技	思・判・表	主体的	評価規準	評価方法	形成的評価による授業
1	私たちの食生活と米のつながりを考える。	○		○	【知識・技能】 ・　自分たちの生活と米が密接に関係していることを理解することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・　米作りが自分たちの食生活に欠かせないものであることに気付くことができる。	発言 ロイロノート	○米が自分たちの生活に身近で大切な存在であることを理解させるため「米がなくなった生活」について、グループで協議させた。今後の学習に向けての意欲が高まり、米作りの未来について切実感をもっている様子がうかがえた。 協議の中で、米は一年中できるかについて、多くのグループから質問があった。よって、米そのものについて知識を得るため、また、第3時での日本の生産地の特ちょうを考える際に、必要な判断材料として、米の生育に適した環境について触れることとする。
2	田植え体験を振り返る。			○	【主体的に学習に取り組む態度】 ・　田植え体験での経験を基に、米作りの苦労と魅力を振り返ろうとしている。 ◎苦労、魅力（楽しかったこと） △やりがい ⇓ 秋の稲刈り	振り返りシート	米が成長するための条件についておさえたことで、豊富な水、広い土地、あたたかな気候が自分たちの田植え体験と一致していることに気付いている児童が多くいた。ふり返りの中で、児童からは「どこから来たか」や「機械だとどれくらいの時間で終わるのか」といった疑問が多くあがった。その疑問を第3時の地理的条件、第5時の機械化での学習でおさえていきたい。
3	日本の米の産地の特徴を考える。 ○川の多さに着目 ↓ 川の水はどこから来ているか ↓ 山に雪溶けた	○	○		【知識・技能】 ・　米作りがさかんな地域の特徴についての資料を読み取ることができる。 【思考・判断・表現】 ・　米作りのさかんな地域の特徴を資料から読み取り根拠付けながら自分なりの考えをもつことができる。 米の生育環境と関連させる	ロイロノート 発言	庄内平野の地理的、気候的特ちょうに関する資料と前時までの米の性質をむすびつけながら根拠をもとうとする児童が多くみられた。また、世界の米の生産地と日本の主な生産地を比べた際には、児童から多くの疑問がうまれ、課題解決的な学習となった。授業の終わりには、地理的気候的特ちょうがそろえば、米の生産量が増えるかについて疑問があがり授業終えた。
4	一粒の米ができるまでの工程を知る。 田植え、稲刈り以外の米づくりの様○を予想させる ↳グループでの話し合い				【知識・技能】 ・　米作りには一年を通してさまざまな作業があることを知るとともに、農家の人たちがおいしい米を作るために工夫や努力をしていることを理解することができる。 工程の写真をもとに、グループでの話し合いで学びを深めた。	ワークシート	前時の終わりに出た疑問に対する予想をもつことから授業をはじめた。生産量を増やすために農家の人ができることも米づくりの工程から考えた。児童からは様々な工程において機械化すべきという意見が多かった。機械化によって得られるメリットだけでなく、課題もおさえるべきであった。 第5時におさえる。

第5時

5	米の生産量を増加させる方法を考える。 ・機械化と手作業との作業時間を比べる ・機械化のデメリット ↳グループでの話し合い。		○		【思考・判断・表現】 ・ 農作業の機械化やほ場整備によって、少ない作業時間で大量の米を作ることができるようになったことを関連して、表現することができる。 教科書のほ場整備前後の写真ではなく、教室から見える身近な田とほ場整備前を比べさせた。	ロイロノート	機械化することでうまれる課題について話し合わせた。児童からは金銭面に目を向けていた。児童にとって身近な田は大きく、四角形であったためほ場整備という視点はうまれなかった。そこで、庄内平野の昔の田と身近な田の違いに着目させ、機械を用いる作業で適している田の大きさ、形を考えさせた。消費量が増えれば、生産量も増えるという考え ＝新たな視点。
6	安全でおいしい米を生産するための方法を知る。 ↓変更 消費者の味をめざしブランド米を考えよう 米作りの未来につながる 生産量を増やす具体的な方法を考える必要あり		○		【知識・技能】 ・ 安全でおいしい米を作るために、試験場や農家、ＪＡなどが協力しながら、品種改良や有機栽培、栽培技術の向上などが行われていることを理解することができる。 ＋ ［思考・判断・表現］ 消費者のもとめる米を考えながら、自分なりのブランド米をつくることができる。 等8時の単元のまとめに向けて、自分だったらどのような米を生産したいかについて考えをもたせるために、品種改良の体験をさせた。 安全性＝農薬使わない。古い米は怖い	ロイロノート	日本全国のブランド米についてインターネットを用いて調べさせた。児童は予想以上にブランド米の数が多く驚いていた。そこで、なぜブランドがうまれているのかや、味以外に何が違うかについて疑問がうまれた。 品種改良という観点に重きをおき、授業を進めた。児童は自分の調べたブランド米同士を組み合わせながらよい米を目指した。かいた、価格、生産量などそれぞれの側面のどの点を重要視するかが児童によって違っていた。
7	消費者により新鮮な米を届ける方法を考える。 ・米の鮮度を保つ保管方法についてもおさえる ＝カントリーエレベーターのはみつ		○		【思考・判断・表現】 ・ 日本各地の消費者に新鮮な米を届けるための方法を話し合い活動を通して考えることができる。 ［知識・技能］ インターネットを活用し、資料を見つけるか。 ↓ 米の保管・輸送方法について理解することができる。	ロイロノート ↓変更 ワークシート	米の鮮度がどのように低下していくかや、適した保存環境についてインターネットで調べさせた。調べたことをもとに、消費者に新鮮な米を届ける方法や保存方法を自分なりに考えを深めていた。話し合い活動を予定していたが、インターネットから情報を収集する技能が本単元によって向上してきているため、個人での時間を多く設けた。
8	日本の米づくりの今後について考える。 ↓変更 自分のブランド米を日本一の消費量にするための方法を考えよう。 日本の米作りの未来について考えることにつながる。		○		【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 本単元での学びを基に、国民の食生活を支える我が国の米作りの発展を考えようとしている。 ＋ ［思考・判断・表現］ 自分のブランド米の消費量を日本一にするための方法を考え、PRポスターを表現することができる。	キーノート ↓ シンキングツール（ロイロノート） PRポスター（ノート）	等6時での自分が考えたブランド米をもとにしながら、日本の今後の米づくりのあり方について自分なりの考えをもたせた。 前時までの学習をふまえながら、根拠のある考えが多くうまれ、単元のねらいの達成につながった。 今後は、児童のもった考えを発信する場を設定することで、より主体性のある学びになると考える。

地域の農家
生産者の視点
児童にとって新たな視点

【別紙５】

実践①　美和小

4-1　4-2

時	板書・評価	学びのポイント・手立て	振り返り・授業改善１	振り返り・授業改善２
1	ごんぎつね　新見南吉 話のイメージ ☆心にのこったこと 兵十　問い　ごん	・ロイロノートに色分けして提出 意図的指名 (手) Yチャート ・兵十、ごん、問いの3観点に分けて感想を書かせることで1人1人の感じ方のちがいを視覚化できるようにする (評) 1人1人の感じ方にちがいがあることに気づく（思）感想や考えをもつ(思)	Yチャートで分類を初めに子どもに示したことで問いについて書く児童が増えて、感想をひきだせなかった。 心にのこったことのみのYチャートへ お互いの感じ方のちがいを観点を分けてしまったため気づかせるまでいけていない。	2観点で考えさせる 兵十　他　ごん 子どもは整理しやすい。 ごんと兵十それぞれの目線で考えることができた。 「似ているけれど」「〜とちがって」と友だちの意見とくらべて考えれていた。
2	(め) 話の設定をたしかめて問いづくりをしましょう ◎時　場所　人物 語り手 ◎問いづくり ・なぜごんはひとりぼっちなのか。(3人) ・なぜいたずらばかりするのだろうか。(4人) ・なぜいたずらきつねなのいつづけないをしたのだろうか。(1人)	・不思議に思ったことを共有 語句ではなく内容から考えさせる (手) ~~辞書を用意~~ ・共有するためにロイロノート ・話型を決めて問いづくりをする 次回以降も!!	(時)については新見南吉の年れいを想像したりとさまざまな意見がでた。理由を根拠とともに発表することになれてきてしっかりと発表できる児童が多くいた。 ☆問いづくりまでいけていない。今後の授業を意欲的に取りくんでもらうためにも問いについて紹介する	主な登場人物 「なぜ〜」など問いを考える児童が多くいた。ごんの性格にせまる問いが多くでて、次時につながっている。 場面を1場面に限定したことで子どもたち同士の考え方のちがいを共有することができた。
3	(?) なぜごんは、いたずらをし始めたのだろうか。 男の子？　ごん　ぎつね　一人ぼっち (め) ごんの人物像から、いたずらきつねになったわけを考えよう	(手) キャラクターマップをつかい、ごんの性格、境遇をよみとる ・1人ぼっちのさびしいきつねであることをおさえる　OK. (評) ごんの言動や境遇から気もちを考える（思）	キャラクターマップをつかったことでふだん考えることが苦手な児童もどんどん考えたことを入れる姿がみられた。黒板は見にくいが子どもたちのシンキングツールとして使うにはOK.	1場面のみに限定する！ 普段なかなかノートをとることができない児童も自分の考えを多く書くことができていた。シンキングツールを使う良さというものが出た授業になった。 場面を限定したことで話しあいがよく進んだ。言動まで見る時間がふやせた。

(め) ごんはどんなきつねか考えよう（2組）

【別紙５】

実践①　美和小

4-1　4-2

時	板書・評価	学びのポイント・手立て	振り返り・授業改善１	振り返り・授業改善２
4	☆情景… 1 場面 情景 ・空はからっと晴れていて… 気もち やっと外に出れる！ワクワク いたずら め 情景を表す言葉に着目して読もう	☆情景という意味をおさえる!! ↓ ごんの気もちをよみとらせる 上下で対応させる。 ひとりぼっちのさみしい きつね 再確認 恩 情景とごんの気もちを結びつけて考えることができる（思）	情景という言葉を子どもたちは初めてきいたようでその説明に時間がかかった。 情景を文からさがすことじたいが今の子どもたちにはむずかしすぎた。 いくつかは教師側がしめしても良いと思う。 今回の授業の目標をめあてとするならもっと子どもたちがごんになりきって気もちを考えれるよう声かけをすべきだった	・空はからっと ・もずの声キンキンと ・雨のしずくが光っていた。 3つにしぼってごんの気もちを考えさせる。
5	近 つぐないをしよう 後半 前半 ぬすみ事件 情景・行動 気もち 遠 母が病死 兵十 め 事件前後のごんの気もちを考えよう	支 ベン図を用いて、前後の気もちの変化を分かりやすくする。 支 ~~ごんの行動を考えやすくするため寸劇をとりいれる~~ ☆したずら → 反省 → つぐない 評 ちょっとしたいたずらの気もちから反省、後悔の気もちに変化することに気づく（思）	自分がごんだったら…と考えを深める児童が多くいた◎ ベン図をつかうことで考えをかける児童は多くいるがベン図をつかうからこそ、文を多く書く児童にとっては使いにくいかもしれない。ちょっとしたいたずらを「後悔する」という言葉が子どもからでた。 自分がしたことに対して反省するごんの心の変化を次回からもおっていきたい 読みとらせたいので、しめさずやった！	情景の意味を理解できている子がたくさんいた。 △ 情景や行動を探しすぎて、気持ちへいけなかったので、主要なものにしぼったほうがいい。 兵十→ごん 遠→近 ◎ の図が 子どもにとって分かりやすいようだ。 主要な
6	後半 前半 いわしぬすみ 情景・行動 気もち 遠 怒り、悲しみ、ぬれぎぬ 兵十 め 3場面のごんの様子や気もちを考えよう	支 ベン図を用いて前後の気もちの変化を分かりやすくする 支 ~~ごんの気もちを考えやすくするために寸劇をとりいれる~~ ☆兵十への思いの強さをおさえる 評 つぐないをするごんの気もちの変化に気づき考えることができる（思）	子どもたちに話しあいのときに相手と話すことを意識させたが子どもたちの話し合いが進まなかった。 話しあいではなく「聴き合う」時間をつくることも大切◎ ☆兵十に対する思を強めるごんの思いに気づけている児童もいる。	情景やごんの気持ちを見つけることが上手になってきた◎ 5限目と同じベン図を使うことで、自分の考えを書ける児童が増えた。 兵十→ごんを使うことで、「昨日よりは近づいたけど…まだ遠い」と昨日の学習と結びつけている児童がいた◎

本時

【別紙５】

実践①　美和小

時	板書・評価	学びのポイント・手立て	振り返り・授業改善１	振り返り・授業改善２
7	(め)4・5場面のごんの気もちを考えよう 様子：井戸のそばで、ふみふみ 「こいつはつまらない」「引きに合わない」 気もち：何の話か気になる！ 「おれのはなしだ！」 気づいてほしい：ぜっかくがんばったのに、なんで神様なのか ごん→兵十(近)	・表にすることで様子と気もちを結びつけることができるようにする。 ☆自分のつぐないに気づいてもらえないもどかしさをおさえる!!	表にして上下でそろえて書いたため、児童のノートも見やすくなった。 ごん→兵十への思いが(近)だけれど、児童の中から「今までよりちょっと遠い」という意見がでたので、そこを深めれるとよかった。 自分がくりをもっていっているのに気づいて！という考えをもつ児童が多くいた。 次回へつながりそう☺	ごんの行動や~~気持ち~~情景の文章を根拠にごんの気もちを深いところまで話し合うことができていた。子どもたちからでたのでよかった 気づいてくれないもどかしさについて。
8	(め)6場面のごんと兵十の気もちを考えよう ごん：つぐないがしたい、死んでもいい覚悟 兵十：たおすチャンス、母のかたき 「ようし」。 ①うちの中 ②土間 ③ごん 「おや」頭がまっ白 (近)取りかえしがつかない ぐったり目をつむって気づいてもらえてうれしい、今までごめん(近)	・自分のつぐないに気づいてほしい気もちをおさえる (ごん)兵十に思いがとどいたことを読みとらせたい (兵十)ごんを打ってしまった罪悪感 (評)最終場面のごんと兵十それぞれの気もちを考えることができる（思）	☆ごんの思いを考える中で、うたれたことへの怒りを考えている児童がいたため子どもたちに話しあわせた。 喜怒哀楽の四択にしたらすべての児童が話しあいに参加できた。 ☆「青いけむり」の情景描写をよみこめている児童は数人。 次時で紹介する。	△兵十にうたれて悲しい・いかりと考える児童が多かった。 また、兵十の気持ちでは、「ごんをうってよかった」と考えている児童もいるため、 児童同士で意見を共有し、修正していく必要がある。 修正した
9・10	(め)物語のつづきを書こう これは、わたしが小さいときに村の茂平という人からきいたお話です。 兵十→加助→人々へ（茂平） ◎三人称で書く 視点は兵十 情景描写を入れる 加助との会話シーンを入れる	・子どもたちの問いにあった「茂平はだれか」を考えていきたい。 ・想像力を広げるためお互いに読みあう時間をもうける。互いのちがいや良さにも気づいてほしい。 よみあいで。 (評)文章を読んで理解したことに基づいて考えをもつことができる（思）	・子どもたちの問いの中であった「茂平とはだれだろう」につながるようにしていく。 評価を思考でとろうと考えていたが「情景描写」を活用すること以外は評価の判断がむずかしい。 ごんが生きているかは、子どもの想像にまかせていたため、ファンタジーのような話をかく児童もいた。 (思考)よりも(主体)でとれるかな。	ごんの兵十に対する気持ちいかり or 罪悪感にしぼって話すことで、情景や行動を手がかりに考えることができた。 △評価をとりづらい。 情景描写を適切に用いているかを確認。 空が明るい→気分が明るい どんより→もやもや を理解して情景描写を用いていた。